

令和２年度 学校関係者評価報告書

大阪市立難波中学校 学校協議会

1 総括についての評価

コロナ禍の中、各目標の半数以上は基準をクリアしたことを高く評価したい。今後も、子どもたち一人ひとりが安心して過ごすことのできる居場所づくりに努め、生徒・保護者の想いを受け止め、相談しやすい学校として、個に応じた支援を充実させてほしい。

また、オンライン学習など「新しい学び」が求められている。教職員も新しい知識を積極的に吸収して、子どもたちにとって良い形で還元できるように学んでいただきたい。このコロナ禍の中、「学校」という存在が子どもたちにとってどれだけ大切なものかを生徒、保護者、地域、学校すべてが感じたと思うので、全員で参画できる学校づくりをこのまま推進してほしい。

2 年度目標(全市共通・学校園)ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標については、昨年度よりいじめ、不登校の件数が増えていた。コロナ禍との関係性があるかどうか、今後注視する必要がある。相談する人がいる、と答えている割合が約 85%となっているが、逆に約 15%の生徒は相談する人がいない、という状況なので、その生徒たちに対するケアをどのようにするのか、を考えてもらいたい。学校でおとなしく、落ち着いて過ごす時間が長いことが、良い方向に進んだとのことなので、来年度も引き続きコロナ対応を強いられることになるが、安全な学校づくりに尽力してほしい。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

経年比較については、3年生のテストがすべて実施できなかったので行うことができないが、卒業生全員が自らの進路を無事に獲得できた、ということで高く評価できる。今後も、確実な進路保障を続けてほしい。1・2年生については、学習内容の定着があまり図られていないテスト結果となっている。授業時数が足りないことも関係していると思うので、補習を行うなどフォローをしっかりと行い、来年度に持ち越すことがないようお願いしたい。

体力面については、例年通りの伸びとなっている、とのことで、コロナ禍での運動不足等の懸念はないと判断する。引き続き、健康面の意識向上にも力を入れてもらいたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

今後は、学力・体力の向上で大きな成果を上げることができるよう期待する。自己肯定感が低く、自信がない生徒が多いと感じられることとも関係性があると思われるので、人権教育、キャリア教育などを各教科等と密接に往還し、自他を尊重し思いやる心、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、教育課程の充実を図ることが必要である、と考える。